

東北、日本の農業をリードする 東北認定農業者が八幡平市に集結

来年から米の生産数量目標が廃止され、農政の転換期を迎えようとしています。また、農家の高齢化や担い手不足などの課題を抱え、新時代に適切に対応して、農業を次の世代へ継承することが求められています。そのためには、人口減少や地球温暖化などの環境の変化に適応した農業経営や地域農業を確立していくことが必要です。特に、認定農業者には地域農業の担い手として期待が高まっています。

そのような中、自らの経営改善と地域農業・農村の発展を目指す東北地方の意欲ある認定農業者が、八幡平市に集結しました。



パネルディスカッションの様子

東北大学大学院農学研究科の伊藤房雄教授が「これからの東北農業の展開について」と題して講演し、米の生産数量目標の廃止や人口減少など農業を取り巻く環境の変化に対応するため、高収益農家や生きがい優先農家など多様な担い手が共存した全員参加型の地域農業の必要性について解説しました。

東北の農業の現状と今後

第1回東北認定農業者サミットは6月29日、30日の2日間の日程で開催され、青森県を除く東北5県から認定農業者ら約370人が参加しました。29日は、八幡平ロイヤルホテルを会場に講演、パネルディスカッション、夜には交流会も行われました。

さまざまな取り組みを紹介

パネルディスカッションでは、ベテラン、若手、女性の認定農業者6人を交え「目指そうとする経営とその戦略」と題し意見を交わしました。

福島県石川町でリング園を営する大野農園(株)代表取締役の大野栄峰さんは、労働の軽減と購買につなげることを目的に、参加者を募り、果実の木を剪定した枝を拾って焼きりんごを作り交流したイベントなどを紹介。新しい農業の形や可能性について発表しました。

課題である担い手不足について、今後を担う若手の認定農業者から「農業の魅力を発信し、今までの農業イメージや意識を変え、若い人が次へつなげたい」と思える業種にしたい「意欲がある若い人を起用し、もっと前に出て成長する機会を増やしてほしい」など前向きな意見が出されました。

継続開催で東北の農業を活性化

今後は、各県持ち回りで開く予定。市認定農業者協議会の小林仁(しのぶ)会長は「東北の認定農業者が一堂に会して意見交換する場を八幡平市から始められてよかった。来年も継続し、東北の農業者の連携を深め、高め合いたい」と力強く語りました。

30日は、①八幡平市②八幡平市・岩手町③雫石町の3コースに分かれ、農事組合法人や観光農園などを視察しました。

6次産業に力を入れる(株)サラダファームの観光イチゴ園や直売店などを見学

田村恵吾氏の農園ではトマトの高規格ハウスを見学し、研修生受け入れによる担い手育成について聞きました



(農)岩手山麓デイリーサポートでは良質な完全混合飼料(TMR)供給の取り組みについて聞きました

